

生きる原点を見つめて



『甦れ日本の心』コンサート主宰
ソプラノ歌手

森 敬恵

絵：茂和泉仁美

失われゆく生命力

近年自殺者が急増し、児童虐待による惨事が後を絶たず、三百万人とも言われるニート群等々が大きな社会問題として浮上している。これだけ社会保障制度がどの時代より整備されているはずなのに、何故このような問題が増え続けるのであろうか？ この現象を引き起こしている原因は一体何なのか、私はその糸を手繰ってみようという強い思いに駆られ、自分なりに調べて始めて十数年になる。

この間、私は歴史の真実に被せられた重い蓋を開け、権力者による現代社会風潮の虚構に気付いた。そして生きとし生ける全ての物は、動物も植物も国家も国民も常に外敵の侵略を受け、我々はそのせめぎ合いの中で生命を維持していることに気がついた。



人生の基盤

今から百年以上前の実話である。インドの山奥で狼に育てられた二人の少女が見つかった。二人は生後直ぐ山に捨てられ、同じ狼が乳を飲ませて育てたのだ。発見された時、二歳と七歳位だったというが、四足で犬よりも速く走り、生肉を貪り食い、舌をだらりと垂らし、体中から黒い毛を長く生やし、夜には定刻に遠吠えをしたそう。二歳の方は急に人間の世界に連れて来られ、パニックを起こして直ぐ亡くなっている。七歳の方は狼の寿命（十五、六年）の十六歳で亡くなっている。この間、人間に戻そうと教育が続けられたが、遂に人間に戻ることは出来ず、覚えた言葉も五つ位、二足歩行も五・六歩、遠吠えは生涯止められなかったという。

このアマラとカマラと名付けられた二人の狼少女が私達に示したことは、生後数年間の環境がその後の人生を決

めているという事実である。眼には見えない周囲の波動をキャッチして、狼としての脳や体の基盤を僅かな期間に造り、その後、その基盤によってしか命を終えられなかったという厳粛な事実である。

現代の弱い生命力、自虐、加虐、自己中、逃避人間は、その基盤造り時の環境に原因が潜んでいるのではないかと思いはじめた。

かつての生活にあったもの

今から五、六十年前はお金も物もなく、生活は貧しく人々は手をつないで助け合いながら生きていた。子供達は近所の人達が面倒も見だし、家族は小さな茶卓台を囲み質素な食事をした。お金がなく質素な身なりをしていても家族の絆は強く、社会の繋がりもあった。そして確かに生きる力が個人にも社会にも漲っていた。何故、厳しい環境にあったあの頃の人達が生命力に溢れ、物が豊かになった現代において

目には見えない大切なもの

は生命力に陰りが出ているのである。その頃と今を比べて見ると真逆の様になっていた。

赤ちゃんは胎内期を含め生後三年位で体の基盤を造るが、この時期に最も赤ちゃんが必要としているものは、母子の一体感と優しい言葉がけだというデータがある。それは中世期にある王様が行った「無言の子育て実験」の結果に示されている。何の言葉かけもされなかった王宮の赤ちゃん達は、全員がミルクを飲めなくなってしまうのだ。赤ちゃんにはミルクと同時に人の優しい言葉がけが必要だった。目には見えない優しい言葉の波動、親からの暖かい心の波動が命の原点だったのだ。

愛と信頼と感謝

豊かな愛情と母子の信頼と生命への



りをおぶつけない。⑦皆にお世話になっている。

という感謝の心を育てている。

これらのルールに従って様々な分野の能力を育てるべく、子育てプログラムが実行されれば、其処此処に高い能力を持った人が出来ることであろう。そして、人々に大きな力と勇気を与え、頑張れば自分も出来るという気持ちを起こさせる力になることである。

しかし現実には更に厳しい環境にある。多くの家庭では朝起きるとテレビをつけ、夜寝るまでつけっぱなしだという。こういう環境に0歳の赤ちゃんが置かれると、その子は発語が遅れ、その後様々な脳障害の原因になり易いと専門家が指摘されている。実際に赤ちゃんのケアに従事されている専門家のアドバイスで、テレビを消して、親が赤ちゃんにしっかりと向き合い、抱っこしたり話しかけたり歌を歌ったりしたら、赤ちゃんの不眠障害、激しい泣き方、言葉の遅れ、奇声をあげる等の症状が改善されたという。

テレビ依存環境の危険

また、赤ちゃんと接する時はテレビや携帯をやめて赤ちゃんを目をしっかりと合わせてあげることが脳の発達に不可欠な要素だと警告されている。この時期の赤ちゃんは狼の波動で人が狼に変身する時期で、目に見えない波動を全てキャッチして体の基盤を造っている。無言でミルクを上げただけで生きたられなかった実験が示す通り、周囲から与えられる波動が、神様のような仕事をして体を造っている。テレビも携帯もやめて赤ちゃんにしっかりと向き合い目を見つめて笑いかけ、「いい子ね、かわいいね」と語りかけ、親がその時間を至福の時間として楽しんでやることで、赤ちゃんを様々な脳障害から守る力になるのだ。赤ちゃんはお母さんと目を合わせる事で視神経調節機能を発達させ、同時に、その神経に連動した脳回路の全てに活発な発達を促すスイッチが入るのだそうだ。それが近年

感謝の想いが命の原点になっていた。この時期にお母さんにしつかり抱かれて母子の絆を揺るぎ無いものにし、生まれてきてくれて有り難うという感謝の心をもつて、優しい言葉や歌をたくさん聴かせてもらい、十分に時間と心遣いを与えてやるのが、その子の生命力に直結している。ここをしつかり押さえたか否かが、大きなその後の差を生んでしまう。

子育ては一番大切

世の中には山ほど仕事の種類があるが、子育てという仕事位大切なものは他にないと思う。この子育てが如何が人間の歴史を造るし、その歴史の流れに素晴らしい輝きを与えたり、逆に暗雲をもたらしたりしている。だから如何に人造りの原点が重要かが分かる。全ての物事の発祥の根源に、いかなる子育てがあったかということが注目されるべきなのだ。明るい楽しい家庭で愛情豊かに育て、ともすれば安易な快樂

や身勝手な欲求に流されがちな弱い人間の心を、強く逞しく判断、制御する力を養ってあげ、忍耐強く高い志に進めるようにもっていく親の努力と信念がその子を立派にしていくのだと思う。

人生の刻印

幼少の頃に刻まれた環境からの波動は、余程の自己制御しない限り、その人の生涯を支配しがちになる。大人になっても何故自分がこういう思考回路をもっているかというのを考える以前に既に本能的に行動してしまいうから余計に分かりにくい。

その人生の刻印を如何に刻まれたかで、その後の人生が決まるといえば少し大袈裟かもしれないが、確かに秋葉原の無差別殺傷事件を起こした青年の親がもし石川遼の親であれば、あの青年は不幸な事件を起こさず、今頃ゴルフの名プレイヤーになっていたかも知れない。

名アスリート誕生の共通点

近年自殺に走る人、薬物に依存する人、引きこもりして社会から逃避する人、それぞれ程度の差はあれ、生命力を強く逞しく育てるべき時期に愛情、言葉がけ、感謝、励まし等の刻まれるべき波動が環境になかったり、少なかつたのかもしれない。しかし明確な数式の答えのように結果が出ないので、一概に言うことは大変難しい。でも、石川遼やイチローを生んだ家庭環境には明確な共通点があるという。

①夫婦仲が良い。②どちらかの親が好きな事をやらせる。③十二歳位まで毎日学校から帰ってくる子供を待っていて、一緒に二人で過ごす時間を親の至福の時間としている。④目標設定は決して高く置かず、一〇%アップ位を目指し、出来るという達成感を感じさせ、毎日続ける。⑤子供の足裏マッサージを親が毎日して上げる。⑥褒め上手で、賞罰のルールを教え感情的な怒

赤ちゃんを見つめあう大切さ

テレビに預けられ、言葉かけも不十分で乳幼児期を過ごす子供が増え、発語が遅く障害を起こしている子供が増え続けているのではないかと専門家は指摘する。

ゲーム脳

脳科学者の森昭雄教授がゲーム機器に長時間子供を預けると、脳が破壊されていき、やがて「殺せ、さもないとお前がやられる！」という声が頭に響くようになると警告を発せられている。抑止脳が壊れ、攻撃脳が異常に発達する結果だそうだ。また、ある大学教授が我が子に英語がペラペラになるようにと、テレビの前で英語漬けの生活をさせた。しかしこの子供は三歳になつて日本語も英語も全く話すが出来ず、知恵遅れにしまった。テレビの波動は人の声の波動とは全く違うものであつて、人は人の波動によつて初めて人間に造られていることを示した貴重な話である。

壊れた摂理

私達の現代の生活は自然の摂理やバランスを大きく崩している。文明に依存し過ぎてしまい、人間が自然の生命体として本来持っている力をも見失っている。人は皆、治癒力をもっているが、直ぐ薬に依存してしまい、自分の生命力強化をしないまま、結果的には様々な副作用に蝕まれてい



たりする。

また、個人の自由や権利ばかりを主張するあまり、日本国一員としての規則や義務を怠り、結果的には自分勝手な主張や生き方をこり押しして、努力や忍耐による成長が出来ないでいる。モンスターペアレントと言われる親の子供は実に不幸な生き方を親から与えられてしまう。

健康や平和という基本的な人間の願望も、それを維持する戦いがあつてこそ、健康でいられるし、平和も維持されていることに無頓着である。ただ平和を叫べばいいとしている片手落ちなのだ。

生きていく上では、困難な出来事は避けられない問題である。この困難を

乗り越えた時、始めて自分に力がつき、達成感や充実感が味わえ自分を育ててくれたことに気が付くし、人生の幸せを感じる事ができる。しかし、今は困難を避けて通り、楽に生きることが主流になり、その為、安易な流れが自分を低下させている事に気がつかないでいる。

また、目に見えないものが私達の命の根源にあるのに、お金や物にのみ奔走して、感謝の心を忘れている。日本人が大切にしてきた伝統的精神が失われ、人間社会の一番の要が目には見えない愛情と感謝と信頼であることを忘れ、ひたすら経済至上主義の損得勘定に走っている。果てしなき欲望と自己利益の果てに不幸が待っているということを知らず、ひたすら破壊への道を突進しているように見える。

原点に帰る

私達は今こそ原点に立ち返り、その原点を基盤に再出発すべきだと感じ

る。人が生きるのではなく、人は生かされている。地球の自転速度は秒速四七〇メートルで音速より速く、地球の公転速度は秒速二八キロという人智を遙かに超えた速さなのだ。私達の人生がいとも静かに神の手によつて守られながら、恐ろしい猛スピードで死に向かつて流れている。

私達が如何に生きるかということは如何に死を迎えるかということなのだ。日本人は世界のどの国も持たない死生観をもった国民である。

私達は一人一人が今の破壊への流れに杭を打ち、その流れを本来あるべき姿に変える戦いをするべきだと感じる。一人の生命体として打てる杭は一本だが、皆が打てばやがて大きな壁になり、日本人が本来持っていた自然の摂理を捉えたバランスと伝統的な日本精神が祖国日本を守ることになると思

森 敬恵 (もり・としえ)



愛媛県長

浜町出身。
済美高等学校
校芸術コー
ス卒業。愛
媛大学特設

音楽科卒業。同大学専攻科卒業。東京芸術大学院オペラ科修了。同大学院定期公演等々。昭和六十三年オペラ「龍の雨」の制作で佐倉市民文化功労賞を授与された。二度にわたるイタリヤ留学でグアリーニ女史マラスピーナ氏に師事しベルカント唱法を学んだ。平成六年継続して行ってきたチャリティーの寄付で日本赤十字社より表彰された。平成十四年三月「愛子内親王殿下おひな祭りの会」でソロ演奏を献上。以下平成二十四年の時点で全国へのコンサートは四百回を超えている。

二期会会員。民間教育臨調会員。日本教育文化研究所員。「甦れ日本の心コンサート」主宰。日本女性の会代表委員。「日本の心歌い継ぐ会」代表。教育再生機構代表委員。